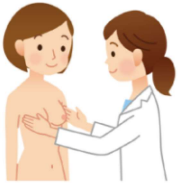


乳がん 高度検診・治療センター NEW ーす NO. 28

2016.9



進歩した乳がんの生検法

乳がんの診断は視触診、マンモグラフィ、超音波（エコー）検査などにより総合的に判断されます。ただそうした臨床診断だけをもとに乳がんとして一連の治療計画が組まれるわけではなく、**何らかの方法で病変の細胞や組織の一部を採取してがん細胞やがん組織の存在を確認することが必要です。それが細胞診や生検（組織診）と言われるものです。**

細胞診とは

しこりを細い針で刺して、注射器で吸引した細胞でがん細胞の有無を調べるのが穿刺吸引細胞診で、局所麻酔も不要で外来診察の合間に手軽に行うことができるのが大きな利点です。視触診、画像所見、細胞診のいずれも典型的ながんの所見が揃えば、生検なしで手術に踏み切ることがあります。

針生検とは

ただ細胞診で確定できないときや、その結果が臨床診断と食い違うときには、針生検という方法での組織診が必要になります。針生検は組織を採取する機器の違いによりコア針生検と吸引式乳房組織生検に分けられます。吸引式乳房組織生検は、吸引力を利用して組織を採取する方法で、マンモトーム、セレロなどの器具が用いられます。こうした針生検は超音波誘導下（エコーガイド下）に行われます。一方、マンモグラフィの石灰化だけで超音波検査で部位が判然としないときはマンモグラフィ誘導下のマンモトーム生検（ステレオマンモトーム生検）がなされます。

針生検ではがんかどうかだけでなく、その性状なども知ることができますので、細胞診でがん診断がついていても針生検を行うことがあります。また、術前に化学療法を考慮するような場合には必ず治療開始前に針生検で組織の確認を行います。針生検は局所麻酔が必要です。針を刺した部位に皮下出血や血の塊ができることがありますが、自然に消えていきます。生検の結果が出るのは約2～3週間後となります。

外科的生検とは

針生検まで行えば通常その結果が最終診断となりますが、ごくまれにそれで最終診断にいたらず外科的な小手術で診断をつける（外科的生検）こともありえます。

針生検などの処置で、がん細胞が周囲に広がったり、がんが急に進行しないか危惧される方がおられますが、何ら心配はいりません。

なお、抗凝固薬（いわゆる血液をサラサラにする薬）を服用中の方は特別の配慮が必要となりますので必ず申し出てください。

生検の種類

1. 針生検
 - 1) コア針生検
 - 2) 吸引式乳房組織生検
 - ・マンモトーム生検（超音波誘導下、マンモグラフィ誘導下）
 - ・セレロ生検など
2. 外科的生検



さらに詳しいことを
お知りになりたいことが
ありましたら、
乳がん高度検診・治療
センターにお問い合わせ
ください。